

## やんばる地域で実施している保護増殖事業



## ヤンバルクイナ保護増殖事業の実施状況

### 1. 生息状況調査

ヤンバルクイナの鳴き交わりによる個体数の推定を行っている。また、ラジオテレメトリーによる行動調査を実施している。

### 2. 飼育下繁殖

平成 18 年度にヤンバルクイナ保護増殖ワーキンググループを設置。マングースの侵入等により分布域及び個体数の減少が認められることから、飼育下繁殖に乗り出すこととし、平成 19 年 6 月にヤンバルクイナの飼育下繁殖に関する基本方針等を策定。

平成 19 年度は飼育下繁殖試験研究に位置づけ、NPO 法人どうぶつたちの病院及びネオパークオキナワの施設において、傷病由来個体及び捕獲個体によるファウンダーの確保及び飼育下繁殖を実施。平成 20 年度の直営施設設置に向け調整中。

#### (関連機関、施設)

##### NPO 法人どうぶつたちの病院

2006 年以降に搬入された傷病個体から 2007 年には 3 番が形成され、そのうち 2 番から 5 羽の孵化育雛に成功。現在 26 個体を 3 つの施設で飼育中。

##### ネオパークオキナワ

名護市内にある民間動物園。園内にある国際種保存センターにおいて、1995 年及び 1999 年に搬入された傷病個体の番から、2006 年に 2 羽、2007 年に 1 羽を孵化し、合計 5 個体を飼育。

##### ヤンバルクイナ保護シェルター施設等

国頭村が平成 18 年に設置した高さ 2.7 m のフェンスで周囲 1.9km を囲った面積約 137,000 m<sup>2</sup> の保護シェルターと観察小屋及び観察システムから成る施設。村が運営協議会を設置し、隣接するくいなパークゴルフ場と併用し常勤の管理人 1 名を雇用。

マングースとノネコの侵入を防除する施設となっており、施設内の水場付近に設置した 3 台の動画カメラにより行動面のデータが得られている。

##### 直営施設

ヤンバルクイナの飼育下繁殖には 200 羽規模の飼育が求められているが、このうち最大 20 番もしくは 40 羽を収容可能な飼育棟及び診察室、事務室等の管理棟を備えた最低限の施設を要望中。

### 3. 交通事故防止対策

道路維持管理機関、警察、沖縄県、地方自治体、教育委員会、沖縄県獣医師会等 24 機関が参画するやんばる地域ロードキル発生防止に関する連絡会議（事務局は那覇自然環境事務所）を設置し、参画機関により事故防止キャンペーン等普及啓発を実施するとともに、関係機関による標識の設置、道路構造の改変等を行っている。県道や国道等において傷病や死亡個体が確認された場合には、やんばる野生生物保護センターが連絡先となっており、センターではそれらを集計するとともに、マスコミを通じて事故の状況を発表、事故防止に関する協力を求めている。年々交通事故発生数は増加し、本年は過去最多の 23 個体となっている。

#### 4. 普及啓発

- ・ やんばる野生生物保護センターの展示等を活用し来館者への普及啓発を実施。路線バスにおいて、交通事故防止やペット遺棄防止のアナウンスを行っている。
- ・ 生息状況調査等に本種の生息が確認される地域の小学校や地域住民が参加できる方法を用いることで、本種について理解を深めてもらっている。
- ・ 餌付け撮影などを防止するための注意喚起やリーフレットの作成を行っている。
- ・ 平成 18 年度には着ぐるみ（クイちゃん）を制作、交通事故防止キャンペーン等に使用している。

## ヤンバルテナガコガネ保護増殖事業の実施状況

### 1. 生息状況等の把握モニタリング

#### (1) 生息調査

民有林等における本種の生息状況把握調査を実施。本種は大径木のウロ内に生息するが、これまでの調査から良好な森林環境下であっても生息する樹木本数が1ヘクタール当たり1本未満であることなどが明らかとなってきた。

#### (2) 生息環境における温湿度の比較調査

本種の好適生息環境を把握するため、様々な森林及びウロ内の温湿度データの収集、分析を行っている。

#### (3) 集団遺伝学的分析

集団遺伝学的見地から繁殖集団の実態を把握し、各地域個体群の現状の認識と今後の動向を予測することを目的に、緊急保護された個体を用いたテナガコガネ類における本種の系統生物地理学的特性の把握及び種内の遺伝的多様性についてmtDNAの分析を実施している。また、種内の遺伝的多様性についても分析を行っている。

#### (4) 形態分析

幼虫や蛹の形態を精査し、同属の近縁種及びやんばる地域における大型甲虫間との比較をしている。これまで終令(3令)幼虫、及び蛹の形態を比較し、今後は若令幼虫での比較検討も行う予定。

### 2. 生息地における生息環境の維持・改善

密猟により影響を受けたウロを改善すれば再び本種が生息可能な状況となることが明らかとなっているため、過去の密猟により影響を受けたウロの環境改善を検討している。

### 3. 生息地における密猟の防止

本種の密猟は、直接生息個体が搾取され減少するだけでなく、ウロの破壊や生息木の違法伐採など生息環境そのものを荒廃させてきた。また、密猟の横行によりウロの再生など生息環境の改善も実施困難な状況である。

そのため、生息地において年間50回程度の密猟防止パトロールを実施するとともに、ヤンバルテナガコガネ密猟防止協議会を設置し、関係20機関とともにポスター掲示、のぼりや横断幕の設置、警察との夜間警邏の実施など、密猟者の摘発に向けた活動を行うとともに密猟防止の普及啓発を実施している。

### 4. 普及啓発

本種の生息が大径木のウロ内であるため一般住民との接点はほとんどない。そのため、やんばる野生生物保護センター内での展示や3の活動等を通じて普及啓発を実施している。

